

会 議 録

会議名称	平成 28 年度 第 4 回柳川市総合計画審議会
日 時	平成 28 年 11 月 21 日 (月) 午後 3 時～午後 5 時
会 場	柳川市城内コミュニティ防災センター
出席者 (欠席者は枠囲み)	<p>【委 員】馬見塚 英典、太田 豪、新谷 将史、富安 信一郎、川津 匡宏、 太田 達明、松尾 美智代、片山 潔、富田 信雄、山下 宗利、 瀬戸口 京子、益田 幸、伴 和美、松延 享朋、清澄 由美子、 作本 憲行、上田 恵佳、待鳥 暁子、生田 裕子、中村 国保、 長嶋 真穂、平川 裕香</p> <p>【事 務 局】成松副市長、高崎総務部長、椛島企画課長、古賀企画課長補 佐、野口企画課総合戦略推進係長、企画課総合戦略推進係松藤、 宮部</p> <p>【関係部長】亀崎議会事務局長、石橋市民部長、原保健福祉部長、大淵建 設部長、成清産業経済部長、樽見教育部長、橋本消防長、田尻 会計管理者</p>
次 第	<p>1 開 会</p> <p>2 議 題</p> <p>(1) 第 2 次総合計画の現状と課題に対する施策の方向性について</p> <p>(2) パブリックコメントについて</p> <p>(3) その他</p> <p>3 次回開催日について</p> <p style="padding-left: 20px;">日時：平成 28 年 12 月 20 日 (火) 14 : 00～</p> <p style="padding-left: 20px;">場所：柳川市民会館第 1 会議室</p> <p>4 閉 会</p>
会議資料	<p>■事前配布</p> <p>第 2 次総合計画の現状と課題に対する施策の方向性について</p>

1 開 会

椋島企画課長

27 施策のうち、15 施策の「現況と課題」をとりまとめ、方向性の提示をしています。

2 議 題

会長あいさつ)

皆さんこんにちは。前回に続く第2次総合計画の「現況と課題」に対する「施策の方向性」について、協議をお願いします。今回は、直接私たちの生活に直結するような内容が多く含まれていますので、飛ばすところは飛ばして、じっくり協議したいところは議論するというような進め方で行きたいと思います。みなさんからの活発な発言をお願いします。では、事務局から説明をお願いします。

(1) 第2次総合計画の構成について

事務局より前回会議からの経過及び内容の見方について説明。

その後、項目毎に事務局より概要説明を行い、協議。

(□は委員発言、■は関係部長発言)

柳川市の歴史・文化・風土に誇りと愛着を持つふるさとづくり

(1) 地域資源に対する誇りとこだわりの醸成

□ 2 ページに「生涯学習活動の場づくりの推進」の施策に記載の「人材バンク」とあるが、15 ページにも「学校・家庭・地域が一体となった青少年健全育成の推進」の中に「地域教育力を担う人材として期待される団体、個人の地域活動への参加を促進します」とあり、ここにも人材の話がでていいる。2 ページの「人材バンク」は、生涯活動においてのものか、それとももっと広い意味の人材バンクなのか。

■生涯学習、社会教育における人材バンク、人材登録を想定しています。

□ 1 ページに「自治会による未加入者対策の取組を支援します。」とあるが、自治会未加入者の把握ができていいるのか。

■行政区と自治会組織は、分けて考えていいるが、地域のコミュニティとして地元の町内会に入らない方が一定数おり、地域コミュニティの団体の長である行政区長さんは、未加入世帯はある程度把握されていいるようです。行政では、実態とは若干異なる数字の把握となつていいるが、広報誌の直送などの事務も発生していいます。行政区と自治会組織は別物ではあるが、行政としては自治会への加入を促していいく、応援していいくという立場で施策を記載していいます。

□ ボランティア団体やNPO団体は、市のホームページなどに掲載されていいるのか。

■ ボランティア団体は、社会福祉協議会にあるボランティアセンターに団体登録をしている団体は把握しています。NPO団体は、認証団体については、把握できています。

□ 子どもの時から地域での活動がないと、大人になってからも地域に対する誇りや愛着がうまれないので、できる限り小さい頃から地域活動に参加していただく。そのためにも、いろいろな人材育成の仕方があると思う。小学生もこれから未来を背負っていくので重要な役割を果たすと思うが、高校生などをもっと利用して、高校生たちが自分たちのまちを「こんなふうにしたい」というような声をあげてくれる、そのような取組みも必要ではないかと思っている。

ここは、これからの柳川市にとっての重要な第一番目の項目。

□ 転入者などは地域のボランティア活動に参加する意欲がなく、だったら自治会には入らないということで、未加入者が増えているのではないかと思う。そのようなことに対する対策も研究していく必要があるのではないかと思う。

(2) 郷土愛とおもてなしの心の醸成

□ スポーツに関する内容は細かく、きっちりしているのに、郷土愛に関する箇所は2行のみのため、もう少し詳しく記載していいのではないか。

■ 事務局でも検討させていただきますが、こういうものを記載した方がいいのではないか、というのがあれば、併せておしゃっていただければ、検討させていただきます。

□ 先ほどの意見についてだが、前にいただいた資料5の中で「想定される主な事業」が細かく記載されているが、それらが今回の資料に記載されていないのは、割愛されたということか。

■ 細かい事業名をどこまで記載するか、ということであるが、方向性として具体例を記載した方がいいのであれば、検討させていただきます。

□ 同じく「郷土愛の醸成」について。他市の事例で、郷土愛を育むような小学生用の副読本を作成にされている。評判が良くて親がぜひ読みたいと、特に外から転入されてきた方が、子どもたちだけではなくて大人でも生涯教育のツールとして使えないか、ということで話があった。市民の郷土愛の醸成がKPIでも掲げているので、具体的には副読本の活用も一つの手法ではないかと感じた。

■ 副読本はすでに、作成しているので、それらの活用を施策の方向性の中に、もうすこし書き込んでいきたいと思います。

□ 「交流基盤づくりの推進」とあるが、観光客について具体的に、どのような国から何人くらいの方が、どういうルートで来ているかという、基本的なマーケティング等の調査はされているのか。

■ 昨年度のインバウンドで15万人、うち8万人程度が台湾からの観光客。台湾の方は日本語を勉強されている方も多いため、やさしい日本語で対応するためのプロジェクトを行っている。

□新しく転入した方は、地域の自治会に参加したがないという実態があるので、新しく転入した方に、さきほどおっしゃられた副読本のようなものを、転入の際に渡していけば、少し理解が進んでいくのではないかと。

■意見を受け止めて、教育部局へ伝え、検討させていただきます。

(4) 人権が尊重される社会の形成

□「男女共同参画社会の実現」において、柳川市は条例が制定されていないが、そのことについては、記載しないのか。

■明日、第1回男女共同参画推進協議会が開催されるので、協議会での検討、意見を聴きながら、男女共同参画推進計画と併せて条例化についても、検討させていただきます。

□最近では、LGBTQなど新しい課題も浮上しており、人権教育・啓発活動ももっと推進していかなければならないことだと思う。

若い世代の希望を叶え、柳川の子育て、暮らしに幸せを感じるひとづくり

(5) 遊んで学べる子育て応援

□子育て中の親や子どもをみると、スマホやスマホアプリなどのメディアやネット関係の問題が非常に大きいと思う。せっかく作成するのであれば、どこかで触れておいた方がいい大きな問題ではないか。

■メディア対策等の具体的対策を入れるかどうかは、担当部署と打ち合わせをしながら検討させていただきたい。

□ICTの推進も重要だが、同時に情報倫理を積極的に推進していくことも重要かと思う。

□お願いになるが、「伝統文化の尊重」とあるが、柳川には詩人北原白秋先生がいらっしゃる。今の若い年代は、曲自体を知らない、歌を知らない人が非常に多い。是非、学校教育の中で取り入れていただきたい。

□子どもたちがパンクしないだろうか、と学校の先生も心配されており、ネット環境に対応した授業など、先生たちも夏休み中、研修を受けている。先生も大変になってきて、教育体制が崩壊するのではないかとという親たちの心配もある。とても多くの施策があるのはいいのだが、地元のことを子供たちに知ってもらう内容をもっと全面に出してもいいのではないかと。

水郷柳川の風情や快適さに共感し人を惹きつけるまちづくり

(9) 住みたい柳川転入者支援

□転入者支援の具体的相談窓口、相談コーナーの設置はあるのか。

■企画課内に定住サポートセンターがあるため、充実を図っていく。

□外部の方から分かりやすいサポートセンターという言葉を具体的に出しても

いいのではないか。

(10) 水郷情緒が楽しめるこだわりの空間づくり

特に意見無し

(11) 誇りとこだわりのある柳川暮らしの情報発信

□柳川市から転出した人をもう一度呼び寄せるための情報発信はあるのか。

■現状では、ホームページ等しかないが、総合戦略の中で、転出者のコミュニティサイト等を記載しています。

□今ここで述べられているのは、移住の方々へということであるが、市民の方々にこれらの情報がどこまで届くのかも非常に大事ではないか。前で説明された「水郷柳川」のハード面は丁寧に記載されているが、「協働による意識高揚」がかなり希薄な感じがする。1番は、郷土愛を教育の中から、子どものうちからどう育ていくのかとほぼ近い課題だと思うが、移住者が発見するまちの魅力もあろうが、地元の方の気持ちの上での柳川に対する愛情をもっともっと掘り下げて、すすめていくと根付いていくのではないか。

■柳川を市外にPRするに当たり、市民が柳川市についてどう思うかという場合に、謙遜してなのか後ろ向きな言葉をおっしゃられる方も一定数いらっしゃると思います。市民が市外の方に「柳川市はいいまちですよ」と誇りを持っていえるような施策をこの中に考えていきたい。

(14) 健康寿命の延伸とだれもが安心して暮らせる福祉体制の充実

□医療費の適正化とあるが、支出するほうだけではなく、健康な方、病院にかからなかった方への支援があるといいのではないか。柳川市だけの問題ではないが、市でできる範囲で何かできないか。

■合併前の市町では、1年間、保険証を使わなかった方へ景品の提供があったが、それを推進することにより、本来は医療機関にかかり早く治療を始めないといけない方が、それをもらうために医療機関にかからず、重症化するというのも過去にはあっているので、意見として、再度検討させていただきたい。

□現状と課題に記載の「結核予防法」は現在ないため、不要と思われる。また、救急医療に関して。28ページにも記載があるが、22ページに記載するとすれば、救急車の全搬送件数は、平成27年度、柳川消防本部は、2,527件だったと思うが、うち軽症者、入院させるほどひどくない人、が874件と全体の3分の1を占める状況。もともと救急車は入院させるほどひどい人以上を運ぶのが救急車の役割で、外来へいける人は自分で行っていただく。救急車の適正利用の観点から、救急医療電話相談や小児救急医療電話相談の活用の啓発の記載も行っていただきたい。救急の項目で入れるのか、ここの項目で入れるのかは検討いただければと思う。

□75歳を過ぎたら車の免許証を返納しましょう、という流れが大きくなってき

ているのにつれ、ストアや病院がないなど陸の孤島のような地域もあるので、そういった点も含めたまちづくりはどのようなになっているのか。

■公共交通については、前回の「柳川の特長を活かした舞台の整備」の中で述べさせていただいています。また、「魅力ある新たな市街地の形成」の中でコンパクトシティについて述べさせていただいたと思います。全国的な課題であり、将来的には公共施設を集約していく等が考えられます。ただ、この基本計画の3か年、あるいは8か年の中で、人口がいきなり集約していくわけでもないため、コミュニティバスについては、ある程度拠点間を結んで確保していく、公共交通についても、現状の交通環境を維持していく形で記載していきたいと考えています。

□他市町村では、健康診断票を基にした運動指導を行っているところもあり、積極的な健康増進の施策がやっていけばいいのではないかと。

■特定検診を基にした健康施策は行ってはいますが、現時点では特定検診の受診者が少ないということもあるため、今後充実させていく必要があると思います。

(16) 快適な暮らしが出来る生活基盤の整備

□危険な特定空家の相談はどちら。

■相談は、市の生活環境課へお願いします。市内の空家は約1,000件だが、危険な空家が85件あるため、空家対策の法律に則り指導等を行っていきます。

(17) 安全・安心のまちづくり

□柳川市の避難状況を見ると、他市町村に比べると非常に避難者が多い。防災に対する啓発が徹底しているのかもしれない。平坦地である柳川では風水害が主になってくると思う。台風の際には、人の避難が第一であるが、家の事前準備をされている方も多い。ただし、コースによって方法も異なってくるので、もう少しこまめな防災情報の伝達をお願いしたい。

■九州北部豪雨の経験の後から避難者が増えてきた実感はあります。こまめな情報の伝達については、その方法も含めて今後の検討課題と考えています。

□学校現場での防災教育も推進していく必要があるのではないかと。

柳川の地域資源や産物を誇れるしごとづくり

(18) 柳川に適した企業誘致と地場企業のビジネスチャンスの拡大支援

□「基盤整備の推進と事業拡大支援による工業の振興」の中に、機械導入などの支援がある。農業関係は支援されていると思うが、工業関係の機械導入の支援とは、具体的にどのようなものを考えているのか。

■現状では、機械補助は行っていませんが、中小企業の融資、信用保証協会の保障料の支援などを行っています。

□「地元高校や大学との連携と交流促進」は分かるが、「地元学の推進」とある

が、「地元学」はあるのか。

- 柳川市のことを知っていただき、誇りに思っていたらとのお考えだが、唐突感もあるので、削除の方向で検討します。

(19) 魅力ある店舗開業、企業支援による商業の活性化

□「空き店舗の有効活用」とあるが、空家情報と空き店舗情報を市のホームページと一緒に掲載してはどうか。また、柳川の「道の駅」の計画はあるのか。

- 現在、空き家・空き地バンクとして、空き家情報は市のホームページに掲載しているので、空き店舗情報については、うまく機能するのかを含めて担当部署と検討をさせていただきます。「道の駅」については、現在のところ具体的な計画はありません。

□総合戦略ではK P I が起業相談件数24件から目標250件と10倍以上の数値を設定されています。これはかなり、相談件数が増えないといけない数値かと思うが、相談センターみたいなものをつくっていただければ、相談する側もここに行けば、プラットホーム的に資金面から販路拡大から全部相談できる、という意識で見てもらえるのではないかと思う。もし、つくられるのであれば、起業支援総合センターのような具体的な記述があれば、外からも分かりやすいかなと思う。

- 現在、商工振興課ベンチャー支援係で対応しており、センターはないので、今後十分検討していきたいと思います。

(20) 強いブランド力に支えられた観光業による稼ぐ力の向上

□地震以降、団体客等落ち込んだこともあり、九州域内の各旅行社や自治体を回っている。その中で、「柳川」自体を知らない方も多いため、もっと柳川のことを知ってもらって、たくさん送客したいと思うような取り組みをやっていきたいと思っている。

□相談センターが明確になるとよいのではないかと、その中に空家、空き店舗が上手くリンクするとまた発展がみられるのではないかと意見があった。そこを踏んで、さらに、「観光業による稼ぐ力の向上」という力強い文言が入っているので、そのステージに観光という要素を踏んで、空き店舗、空家が上手くつながっていくと、新しいものが生まれるのではないかと。強いところを強化して、そこに余剰のものを上手く展開していくという方法があるのではないかと。思ったりする。というのが、福岡で女性向けの起業支援セミナーを毎月行っている。その中で、福岡商工会議所が事業承継に向けたコーディネートをやっている。いきなり起業は、資金も人力も経験も必要になるが、それを持っているけど活かさなくて、もしかしたら廃業になるかも知れない方と何かをやりたい若い力を組み合わせることで、企業が再スタートするという話を聞いたセミナーの参加者が、商工会議所へ相談し、事業の道を見出されたという話を聞いている。いわゆる求める方と持っているモノ、あまっているモノ、活かされている

ないモノを上手くコーディネートする力が必要なのかと思う。そういう発想を促していく動きが行政にあったり、民間との協働によって成立すると思う。

- 「観光客のニーズに沿ったお土産品や食事や体験メニュー」とあるが、観光客目線なのか、柳川を打ち出すような発想の食事やメニューなのか、それもここには挙げる必要があるのではないかと。あくまでも観光客が目指すところではなく、我々がアピールしていく中で観光客に来ていただくような開発等も取り入れる必要があるのではないかと。
- 郷土愛やおもてなしの心の醸成が記載されてきているので、それらが観光につながる横をつなぐ支援体制や市民による観光のPRについては。
- 市の機構のことであれば、そちらでの書きぶりを検討していきます。まずは、市職員を含めた市民全部が、柳川を誇りに思っただけで柳川をPRしていく気持ちと環境をつくっていくことが、これからの柳川のまちづくりで大切だと考えているので、そういった点をもう少し打ち出していけるよう検討します。
- 創業者向けの相談窓口ということだが、まさしく商工会議所が担う立場であり、指導員も4名配置し、指導等行っているがPR不足かと感じた。空き店舗についても担当職員を配置して把握しているが、生活空間として居住されている物もあり、どう切り分けをしていくのか等、考えてPRをしていきたい。

(21) ブランド確立による稼ぐ農漁業への転換

特に意見無し

(22) 産業の後継者づくり

- 白秋祭に参加させていただいた席で、とても人気が高かったのが海苔だった。普通の海苔も人気だったが、チーズ味などのアレンジされたものが、一緒に乗船した女性といわず、男性といわず、「これ初めて食べた!」「これどこで買えるんですか!」と聞かれていたが、具体的にどこで買えるのか分からなかった。スターなる商品は何をもって産むのか、外が求めるものなのか、地元の人が求めるものなのか、という声もあったが、要は強いものをどう育てていくかということだと思う。有明海苔は国内でも誇れる海苔だと思っている。「海苔は海苔でも」というものが本当はあるのに、上手く伝わっていないのは残念だなと思った。いいものを持っているので、上手く発信できると、ここにある漁業がどう成り立っていくのか、それを加工する産業がどう育っていくのか、というところでは、あるものを見直し、磨き直しがいいのではないかと。
- おっしゃっているのは、漁連が海苔の商社との提携によるバター風味の商品かと思う。有明海苔の特長が干満の差を利用して、味がよくやわらかいのが特長のため、その1番摘みだけを使って製品化をしている。今後は、JAとも提携しながら、川下りの終点にある空き店舗を利用した6次産業を計画している。柳川の魅力を発信するために、JAや観光業とも連携しながら、柳川なら

ではの商品、料理の開発をこの総合計画などをもとにやっていければと思っています。

□観光業に今まであまり縁のなかった農業、水産業も取り込みながら、柳川の特長、強いものを生み出していくという取組みが必要ということ。

(2) パブリックコメントについて

事務局より説明。

特に意見無し

3 次回開催日について

次回の会議は12月20日、火曜日、14時からとします。場所は市民会館第1会議室になります。

4 閉会